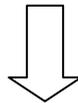


第 2 回懇談会議論のポイントまとめ

1 「なぜ、協働が必要か」について

《主な意見》

- ・ 協働に関して、区民との共通理解が不足している。
- ・ 区民の目線で分かりやすくまとめる必要がある。
- ・ 住民は行政に任せておけばいいんだという意識が多分にある。
- ・ 地域のことに関心がない住民に対する広報をどうするかという課題がある。
- ・ 住みやすい地域コミュニティを目指すための手段の一つとして、協働が必要である。



《修正の方向性》

- ・ 区民から見て分かりやすく、協働の必要性についてまとめる。
- ・ 区民への普及、啓発について「協働事業の現状、課題と目標」の中で検討する。
- ・ 協働は、住みやすい地域コミュニティを目指すための一つの「手段」であるということを加える。

2 「協働の定義」について

《主な意見》

- ・ 2 ページアの「平成 17 年 3 月に策定された「練馬区 NPO との協働指針」の中では～」の文言は削除すべきではないか。
- ・ 定義案の最後が「その結果、より区民満足度が高い、豊かなまちづくりが実現されていることとあるが、「これのために協働します」という形にする必要がある。
- ・ 一般の人が読んでもわからない。



《修正の方向性》

- ・ 「練馬区 NPO との協働指針」に関する文章は削除する。
- ・ 定義案について、協働は手段であり、手段として活動している状態と、目指す状態を明確にした文章に修正する。
- ・ 表現をわかりやすく工夫する。

3 「協働のパートナー」について

《主な意見》

- ・ 2 ページの「協働のパートナー」は「協働の主体」に変更して、「行政」も主体の一つに入れて、9つの主体がうまく組み合わせる様な形が良い。



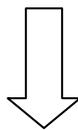
《修正の方向性》

- ・ 「協働のパートナー」は「協働の主体」に変更し、「行政」も主体のひとつとして位置付ける。

4 「協働事業の形態」について

《主な意見》

- ・ 「助成金の交付」の説明文はわかりやすく修正する必要がある。
- ・ 「区政への参加・参画」と「協働」との関係を説明した文書については、理解しやすい表現に改め、報告書の最後に用語集のような形で置いた方が良い。
- ・ ⑧「協働事業拡充のための人材育成事業」と⑨「その他、広報媒体への掲載等」について、⑦までは協働の形態だが、⑧と⑨は協働を進めていくための方策になっているので、性格が違うものが混在している。そのため、どこに位置付けるべきかの検討が必要である。
- ・ 具体的な事業名を書き足した方が分かりやすい。



《修正の方向性》

- ・ 「助成金の交付」について、協働に該当するものと、該当しないものを明確にした文章に修正する。
- ・ 「区政への参加・参画」と「協働」との関係を説明した、四角囲みの文章については、内容を理解しやすく修正した上で巻末に用語解説のような形で整理する。
- ・ ⑧と⑨について、このまま「協働事業の形態」に置いておくか、「協働事業の現状と課題、方向性」で書き込むかについては、とりあえずは現状のとおりとするが、位置付けについて引き続き議論を進めていく。
- ・ 協働の形態の説明文に、現在実施している協働事業名を加える。

5 「協働の原則」について

《主な意見》

- ・ 補助金を受ける側と出す側とは決して対等ではない。主体同士の対等性が重要。
- ・ 行政と民間が単独で取り組むよりも、両者が一緒に取り組むことで、より良く目的を達成できるという原則を盛り込むべき。



《修正の方向性》

- ・ 現状を踏まえ、「対等の原則」について、記述を加えていく。
- ・ 「協働の原則」に「単独で取り組むよりも、協働で取り組んだ方が成果が向上する分野で協働すべき」という趣旨の原則を新たに加える。

6 「協働事業の領域分類」について

《主な意見》

- ・ 7ページの「協働事業の領域分類について」の表に具体的な協働事業名を書き加える必要がある。



《修正の方向性》

- ・ 現状実施している協働事業名を書き加え、わかりやすい表にする。

7 その他

《主な意見》

- ・ 住民の声がもっと役所に伝わる仕組みが必要である。
- ・ 行政と団体相互の意見を聞いて調整する組織の必要性を感じる。
- ・ 協定書などを検討する必要がある。
- ・ 施設整備の必要性については、長期計画に盛り込んでいただきたい。



《修正の方向性》

- ・ 施設整備の具体的な内容も含めて、「協働事業の現状、課題と目標」の中で議論する。